

④8 多摩動物公園キリン舎の整備

受賞機関 東京都 建設局 東部公園緑地事務所

キーワード 施工技術の工夫、飼育担当職員の参画、繁殖に対応した快適で安全な環境、魅力的な観覧機能

全建賞審査委員会の評価ポイント

動物公園のキリン舎整備。日本トップの繁殖に対応するという命題に加え、動物の事故を防ぐ、魅力的な観覧機能を持たせる等の難しい条件のある事業に対し、設計、施工段階で飼育担当職員の参画を得て整備に反映させている点や、施工中の動物への影響を低減するための技術的な工夫が見られる点が評価された。

1. はじめに

多摩動物公園は、東京都日野市に位置し、昭和33年の開園以降、多摩丘陵の豊かな自然環境の下で、動物の生態を活かしたダイナミックな展示や、希少動物の繁殖に取り組んでいる。近年、園内施設の更なる充実、更新に努めており、ライオンバス乗場・飼育場の整備に続き、令和4年3月には新しいキリン舎が完成した。

2. 事業の概要

キリン舎は、昭和30年代後半に整備され、耐震上の問題や老朽化による安全面に大きな課題があった。整備においては、動物愛護に関する法律等の遵守、設計・工事の経験や実績に基づく検討に加え、魅力的な施設展示への創意工夫が重要であった。



新キリン舎（外観）

計画段階から動物飼育職員の参画により、動物の生態や特徴に関する助言、施工中の内覧会の開催等を実施した。これらの連携により、飼育側からの視点を取り入れ、動物と飼育職員相互の安全に配慮した整備となった。

また、当園のキリンの繁殖実績は国内最大を誇る。国内外の繁殖活動の核として飼育方針の第一方針に「保護・繁殖活動」を掲げており、出産のための産室、繁殖に必要な隔離室等の充実を図った。

さらに、第二方針「サービスを充実し多くの来園者を迎える」の実現に向け、動物の魅力を最大限に楽しむことが出来る複数の観覧ポイントを整備した。

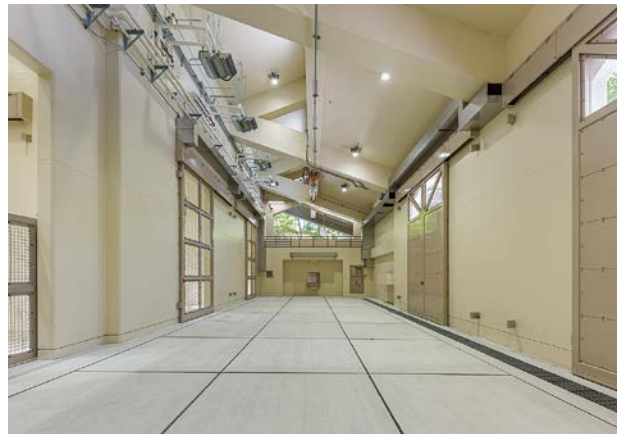
3. 事業の成果

新施設は、キリンが現飼育場外への移動が困難な大型動物であることを考慮し、隣接する斜面を造成して敷地の拡張を図り整備を行った。

山留工事では、騒音や振動等が飼育動物に与える影響が大きく、配慮や工夫が必要であったため、低振動低騒音である硬質地盤クリア工法（クラッシュパイラー）を採用した。また、掘削時に発生する大量の湧水が飼育場へ流入・浸水する懸念があったほか、キリンの蹄が濡れ、関節炎等の病気の発症に繋がる恐れもあり、揚水ポンプと仮設排水溝の設置による対策にも取り組んだ。

キリンはアフリカの動物の中でも寒さが大きな負担となるため、天井高10mを超える屋内施設には温風をエア搬送ファンで循環させ、温水配管の床暖房を整備した。また、屋外パドック床面に融雪設備を導入し、凍結による転倒事故の防止を図った。これらの各設備の相乗効果により、快適で安全な飼育環境を実現した。

展示面では、丘陵地の高低差を生かし、建物2階に来園者の観覧場を設けた。観覧場から屋内を見渡す魅力的な展示方法は園内初の試みであり、間近で観察するキリンがエサを食べる様子は圧巻である。



新キリン舎（内観）

4. おわりに

飼育動物の生息環境を整え、職員が安全・安心に飼育作業に取り組み、来園者が元気なキリンの姿を観覧できる魅力的な施設が完成した。

本施設は、子どもから大人まで様々なお客様が楽しみ学ぶことができる施設として、また、動物の繁殖など動物園に期待される様々な使命を担いながら、新たな展示を開始している。